

# 令和元年度 榎野川河口干潟自然再生 報告書（概要版）



榎野川河口域・干潟自然再生協議会

## 1 活動の指標・概要

### 1.1 活動指標

#### (1) 親水性の向上

内容	数値	備考
● 活動に参加した延べ人数	1,047人	榎野川河口干潟再生活動、クロツラヘラサギ海岸清掃、カブトガニ幼生生息調査、ふしの干潟生きもの調査団、自然再生協議会全国会議、二島小学校環境学習、二枚貝モニタリング、きらら浜自然観察公園干潟行事
● やまぐち森・里・川・海自然再生プロジェクト(榎野川河口干潟再生活動2019)		
参加人数	420人	+56(前年度比)
学生ボランティアの人数	70人	+3人(前年度比)
企業ボランティアの人数	90人	+48人(前年度比)
● 潮干狩りを体験した人数	494人	+225人(前年度比)
● 環境学習を受けた子どもの人数	288人	+117人(前年度比)
● 活動に関わった大学・学校の数	5校	-1校(前年度比) 山口大学、水産大学校、山口県立大学、山口東京理科大学、二島小学校
● 活動に関わった企業等の数	16社	-3社(前年度比) あいおいニッセイ同和損害保険、あいおいニッセイ同和山口支店プロ会、伊藤園山口支店、積水ハウス山口工場、宇部セントラルコンサルタント、戸田工業、ふしの干潟サポーター10
● きらら浜自然観察公園の入館者数	8,970人	ビジターセンターの利用者(12月末時点)

#### (2) 活動の実施内容

内容	数値	備考
● 干潟の耕耘面積	450 m <sup>2</sup>	+150m <sup>2</sup> (前年度比)
● 被覆網の総設置枚数	274枚	+33枚(前年度末比)
● 被覆網の総設置面積	2,360 m <sup>2</sup>	+297m <sup>2</sup> (前年度末比)
● 海岸清掃の回収量	185.1 kg	
● 環境学習会の回数	7回	-3回(前年度比)

#### (3) 普及啓発等

内容	数値	備考
● 活動等の取材件数	8社	山口ケーブルビジョン、NHK日本放送協会、KRY山口放送、TYSテレビ山口、宇部日報、山口新聞、中国新聞、毎日新聞、朝日新聞
● 講演・雑誌掲載・視察の件数	5件	
● ふしの干潟いきもの募金の額	〇円	集計中 あいおいニッセイ損害保険(株)寄附金、きらら浜自然観察公園出展(春まつり、ふれあいまつり)、ふしの募金サポーター
● ふしの干潟ファンクラブ会員数	40人	+10人(前年度末比)
● ふしの干潟サポーター数(募金協力企業等)	18団体	2020年1月末時点

## 1 活動の指標・概要

### (4) 指標種

内容	数値	備考
● アサリ収穫量(南潟)	401 kg	(前年度846kg) 2020年2月時点
● カブトガニ(山口湾)		
幼生の発見個体数(長浜+南潟)	855 個体	-145個体(前年度比) 2019年8月・9月調査
幼生の推定個体密度(長浜)	162個体/ha	(前年度175 個体/ha)
幼生の推定個体密度(南潟)	201個体/ha	(前年度240個体/ha)
産卵調査のつがい数(山口湾)	856 つがい	+155つがい(前年度比) 2019年6~8月調査
● 野鳥(山口湾)		
クロツラヘラサギの飛来数	23 羽	-5羽(前年度比)
ズグロカモメの飛来数	140 羽	+18羽(前年度比)
ハマシギの飛来数	465 羽	-55羽(前年度比)
チュウシャクシギの飛来数	368 羽	-37羽(前年度比)
ダイゼンの飛来数	21 羽	-4羽(前年度比)
アオサギの飛来数	集計中	(前年度105羽)
ダイサギの飛来数	集計中	(前年度232羽)
マガモの飛来数	集計中	(前年度1,730羽)
カルガモの飛来数	集計中	(前年度915羽)
ミサゴの飛来数	集計中	(前年度30羽)

### 1.2 活動の表彰歴など

年月	受賞内容	受賞団体
H12	山口県環境保全活動功労者等知事表彰	榎野川漁業協同組合
H17.4	みどりの日自然環境功労賞(環境保全活動部門) 環境大臣表彰	榎野川河口域・干潟自然再生協議会
H17	山口県瀬戸内海環境保全協会会長表彰	榎野川流域連携促進協議会
H18.1	手づくり郷土賞(地域活動部門)国土交通大臣表彰	榎野川の源流を守る会
H22.6	第30回豊かな海づくり大会・環境大臣特別賞 (漁場・環境保全部門)	榎野川流域活性化交流会
H22.8	水資源功績者表彰(国土交通省)	榎野川の源流を守る会
H25	県民活動きらめき賞(山口きらめき財団)	山口カブトガニ研究懇話会
H25.12	第5回プロジェクト未来遺産登録 (公益社団法人日本ユネスコ協会連盟)	榎野川流域連携促進協議会
H29.12	生物多様性アクション大賞2017入賞 (国連生物多様性の10年日本委員会)	榎野川河口域・干潟自然再生協議会 (カブトガニWG)
H30.3	国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J) 認定連携事業 (第14弾)	榎野川河口域・干潟自然再生協議会
R1.11	手づくり郷土賞(大賞部門)国土交通大臣表彰	榎野川流域連携促進協議会、山口県、 山口市

## 1 活動の指標・概要

### 1.3 活動一覧

分類	内容	実施主体
干潟再生活動・環境学習活動	やまぐち森・里・川・海自然再生プロジェクト(干潟耕耘・生き物観察会等)	榎野川流域連携促進協議会、山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所、環境学習WG
	アサリ再生活動(被覆網、母貝団地の設置等)・潮干狩り	山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所、干潟・水産資源再生WG
	あさり姫プロジェクト@榎野川河口干潟	環境学習WG
	カブトガニ観察会(長浜・岩屋)	カブトガニWG、山口カブトガニ研究懇話会
	野鳥観察会(土路石川周辺)	NPO法人野鳥やまぐち
	野鳥の教室(きらら浜自然観察公園)	山口市環境政策課
	クロツラヘラサギの保全事業	NPO法人野鳥やまぐち
	クロツラヘラサギを守るための海岸清掃・潮干狩り	NPO法人野鳥やまぐち、山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所、協議会
	住民協同型の干潟生物マップづくり	環境学習WG
	自然再生協議会全国会議	環境省自然環境局自然環境計画課、協議会
学術研究・調査	二枚貝モニタリング	山口県環境保健センター、干潟・水産資源再生WG
	土砂環境モニタリングの取組、ドローンの活用による地盤高調査等	山口大学 大学院創成科学研究科 白水助教、山本准教授
	環境DNA解析技術を生かしたアサリモニタリングの構築	山口大学 大学院創成科学研究科 後藤専門研究員
	干潟に生息する肉食性巻貝と二枚貝の捕食-被食関係の解明	水産大学校 沿岸生態系保全研究室 大野氏、須田教授、南條助教
	山口湾の干潟域におけるクロダイの出現の季節変化と食性および炭素・窒素源の推定	瀬戸内海区水産研究所 干潟生産グループ 重田主任研究員
	山口湾干潟に設置されたアサリ被覆網内外のベントス相	瀬戸内海区水産研究所 干潟生産グループ 辻野主任研究員
	被覆網を用いたベントス保護手法に関する検討	山口県環境保健センター、干潟・水産資源再生WG
	カブトガニ幼生生息調査(長浜・南潟)	カブトガニWG
	カブトガニ幼生生息調査(岩屋・土路石川等) カブトガニ産卵調査(山口湾)	山口カブトガニ研究懇話会
	野鳥モニタリング	NPO法人野鳥やまぐち
きらら浜自然観察公園でのアサリ育成試験	NPO法人野鳥やまぐち	
広報・啓発活動等	ニュースレター、年度報告書	山口県自然保護課
	ホームページ、Facebook、パンフレット	山口市環境政策課、山口県自然保護課
	学会発表・講演等	各委員
	募金活動	持続可能な里海づくりWG
	ボランティア確保(ふしの干潟ファンクラブ)	持続可能な里海づくりWG
	里海再生活動の共感者増加に向けた取組	持続可能な里海づくりWG

※ 下線\_\_は、本年度から新たに開始された活動。



## 1 活動の指標・概要

## 1.4 ふしの干潟生きもの募金支援対象活動

実施者		活動名	要望額	配分額
山口大学	白水 元	榎野川河口干潟の地形・流状および土砂環境モニタリング	200,000	200,000
	後藤 益滋	環境DNAを用いたアサリモニタリング手法の開発	200,000	200,000
干潟・水産資源再生WG	水産大学校生物生産学科沿岸生態系研究室	干潟に生息する肉食性巻貝と二枚貝の捕食－被食関係の解明	200,000	200,000
	環境保健センター環境科学部、自然保護課	二枚貝モニタリング調査、被覆網によるアサリ再生活動の効果的手法の検討	200,000	200,000
	NPO法人野鳥やまぐち	きらら浜自然観察公園におけるアサリ育成試験	120,000	120,000
	瀬戸内海区水産研究所 生産環境部 干潟生産GR	干潟域を生活史で利用する魚類の生態と成育場の生息環境に関する研究	200,000	200,000
環境学習WG	平田 明子、後藤 益滋	住民協同型の干潟生物マップづくり	59,300	59,300
カブトガニWG	原田直宏	カブトガニ幼生生息調査・観察会	68,000	68,000
持続可能な里海づくりWG	株式会社ライフスタイル研究所	榎野川河口干潟等における里海再生活動の共感者増加に向けた取組	67,000	67,000
榎野川流域連携促進協議会		榎野川河口干潟再生活動2019	280,000	280,000
事務局		ニュースレター作成	100,000	100,000
		事務費(振込手数料等)	50,000	50,000
合計			1,744,300	1,744,300

## 2 自然再生活動

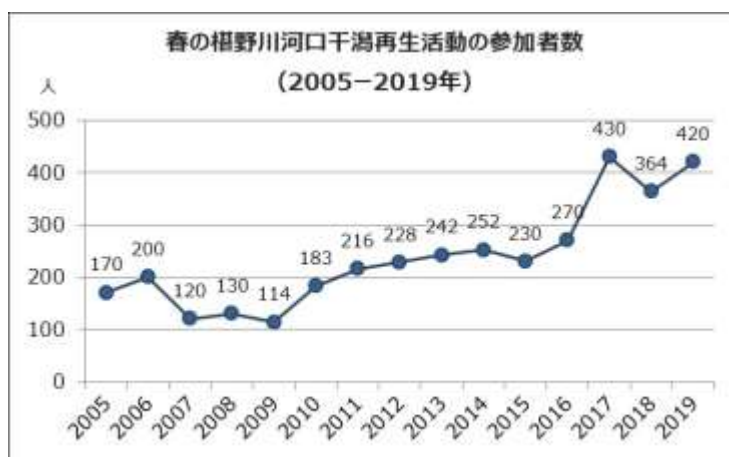
### 2.1 榎野川河口干潟再生活動2019 ～やまぐち森・里・川・海自然再生プロジェクト～

#### (1) 開催概要

- ・開催日：2019年4月20日(土) 12:30～15:30 【大潮、最干15:26、潮位10.4cm】
- ・場 所：旧県漁協吉佐支店山口きらら支所、南潟
- ・主 催：榎野川流域連携促進協議会、山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所
- ・協 賛：あいおいニッセイ同和損害保険(株)山口支店
- ・協 力：あいおいニッセイ同和山口支店プロ会、(株)伊藤園山口支店、  
積水ハウス(株)山口工場、水産大学校、山口大学、山口県立大学、  
榎野川河口域・干潟自然再生協議会WG

#### (2) 参加者

- ・420人(子ども112人、スタッフ含む)
- ・学生：水産大学校、山口大学、山口県立大学、ボーイスカウト
- ・企業等：協賛・協力企業、東京久栄、ふしの干潟ファンクラブ 等



あいおいニッセイ同和損保(株)山口支店  
あいおいニッセイ同和山口支店プロ会



水産大学校、山口大学



山口県立大学



集合写真

## 2 自然再生活動

### (3) 実施内容

#### ① 榎野川の恵みを味わう試食会

- ・アサリ汁(約40kg) …山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所
- ・榎野川流域の山菜の天ぷら …榎野川流域連携促進協議会
- ・あゆ飯の販売 …榎野川漁業協同組合



#### ② 募金活動

- ・試食会会場において、募金活動及びふしの干潟いきものせんべい（寄附付き商品）の販売を実施。合計9,683円の寄付金を収受した。
- ・山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所の山口湾漁業権管理組合(上田運営委員)から、3月に販売されたアサリの売上の一部から寄付(1万円)を贈呈。



#### ③ 潮干狩り・生き物観察会

- ・潮干狩りは、区画23-1・23-2・24-7・25-1・26-1・28-1・28-2で行った。
- ・観察会の講師は、山口大学の後藤委員、水産大学校の学生、山口カブトガニ研究懇話会の原田委員、NPO法人野鳥やまぐち寺本さん、下濃さん。

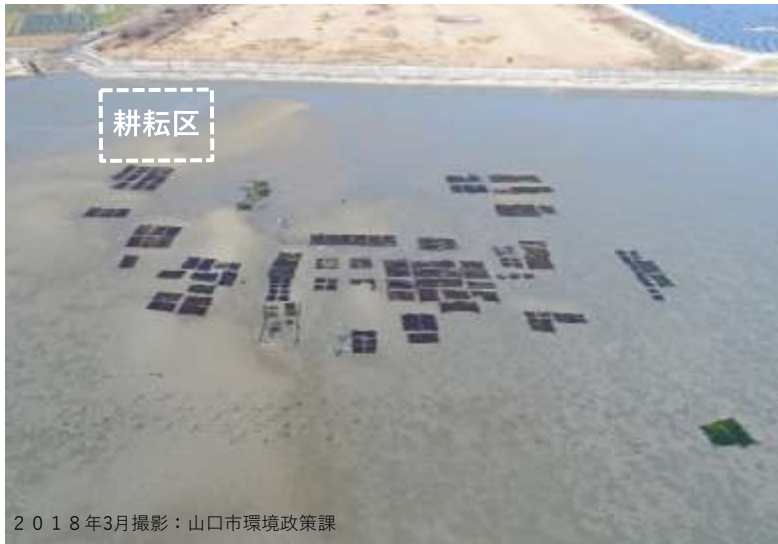




## 2 自然再生活動

### ④ 干潟耕耘作業

- ・ 2005年から15年目(2005～2007年は県の実証事業)、20回目の耕耘作業(2005～2008年、2014年は秋季にも実施)。
- ・ 30m×15m(450㎡)の区画を約60人で耕耘した(うね平行)。
- ・ 耕耘実施後、被覆網(3m×3m)を24枚、(2m×2m)を6枚を耕耘区(31-1)設置した。



### ⑤ アサリ再生活動(被覆網交換)

- ・ 区画19-2、23-3の被覆網を交換。23-3に被覆網(3m×3m)を9枚増設。
- ・ 区画26-1は廃止。
- ・ 25-1の網下に潮干狩りで採捕した3cm未満のアサリをまいた。



### (4) 取材

山口新聞 (4/21掲載)



## 2 自然再生活動

### 2.2 クロツラヘラサギを守るための海岸清掃・潮干狩り

#### (1) 開催概要

- ・開催日：2019年6月1日(土) 10:00～14:00 【中潮、最干13:29、潮位51cm】
- ・場 所：きらら浜自然観察公園、土路石川河口、南潟
- ・主 催：NPO法人野鳥やまぐち、山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所  
榎野川河口域・干潟自然再生協議会
- ・協 力：あいおいニッセイ同和損害保険(株)、(株)伊藤園、積水ハウス(株)山口工場
- ・備 考：サントリー世界愛鳥基金助成事業、海ごみゼロウィークイベント

#### (2) 参加者

- ・約210人(子ども53人、スタッフ含む)

#### (3) 実施内容

##### ① 海岸清掃

- ・土路石川河口の海岸漂着物を回収。木や草は回収せず。
- ・計185.1 kgを回収。内訳：燃えるごみ78.3kg、不燃ごみ59.6kg、プラごみ47.2kg



##### ② ふるまい

- ・NPO法人野鳥やまぐちから、南潟で採れたあさり汁とおにぎりがふるまわれた。



#### (4) 取材

KRY山口放送 (6/10、6/11放送)

## 2 自然再生活動

## 2.3 アサリ再生活動

## (1) 被覆網の設置（南潟）

アサリが、ナルトビエイ、カニ、クロダイ、アカニシ、ツメタガイ等に食害されることを防ぐために設置。また、波浪による稚貝の飛散を防ぐ効果もある。アサリだけでなく、他の貝類や多毛類の増加にも効果があることが確認されている。

## ● 被覆網の仕様

- ・使用している被覆網の大きさは、2m×2m、3m×3m、3m×5m、1m×10mの4種類。
- ・目合は9mm(青色)と18mm(緑色)。ナルトビエイの食害防止には30mm程度、カニ類の食害防止には9mm程度が必要である。
- ・2018年度から、管理が容易な3m×3m(9mm目合)の被覆網の使用を開始。

## ● 設置方法

- ・1mの鉄筋杭により、2m×2mは4点(頂点)、3m×3mは8点(頂点、辺に各1点)、3m×5mは10点(頂点、辺に各2点)、1m×10mは14点(頂点、長辺に各5点)で固定。
- ・設置時、被覆網の縁は土中を掘り起こして埋めている。
- ・2017年度から、県環境保健センターが、四方に鉄筋棒を取り付けた網、市販の安価な網(18mm目合)を検証中。

## ● 設置面積等

- ・今年度、被覆網を39枚(321m<sup>2</sup>)増設し、6枚(24m<sup>2</sup>)撤去。総設置面積は2,360m<sup>2</sup>。
- ・耕耘区31-1に240m<sup>2</sup>、区画23-3に81m<sup>2</sup>を新たに設置。また、区画26-1の被覆網が破損したため、撤去6枚(24m<sup>2</sup>)。



## ● 被覆網のメンテナンス

- ・海藻の付着した被覆網は、折りたたんで干潟に固定。波によって海藻が取り除かれた後に再利用。
- ・2019年4月の活動で、区画23-3に設置した海藻の付着した被覆網や破れのあった被覆を交換したほか、適宜交換した。





### 南潟の平面図

(岸側堤防)

- 3m ← 新しく設置した被覆網
- 3m ← 新しく設置した被覆網
- ☆ : 2019モニタリング地点
- ☆ : 確保Cモニタリング地点
- : 瀬戸内水研モニタリング (7月末まで)

網の種類

- 3m×5m, 9mm目
- 3m×5m, 9mm目 [母貝]
- 3m×3m, 9mm目
- 3m×3m, 9mm目, 四方に鉄筋棒
- 2m×2m, 18mm目
- 2m×2m, 18mm目, 四方に鉄筋棒
- 1m×10m, 18mm目

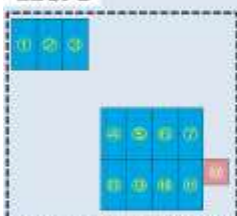
H31轄転区  
15m×30m 区画: 31-1



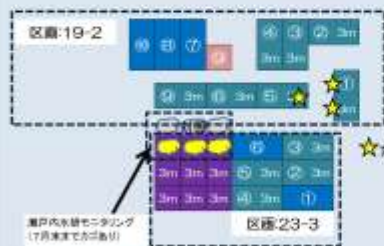
区画: 23-1



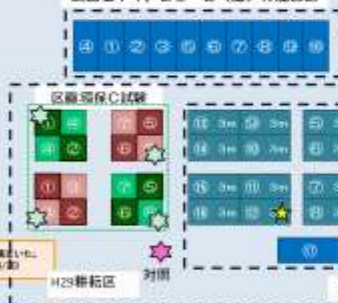
区画: 23-2



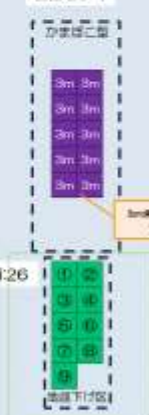
区画: 19-2



区画: 24-7, 28-2 (混) の混合区



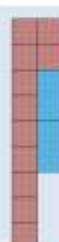
区画: 25-1



区画: 29-2



区画: 29母貝



区画: 26



区画: 26-1 (備)



区画: 28-1 (備)



区画: 29-1



区画: 27-1



区画: 30母貝



生活性プール  
4.5m四方



生活性プール  
3m四方



H30轄転区  
15m×20m

区画: 30-2



区画: 30-1



区画: 30母貝



沖側

区画: 29母貝





## 2 自然再生活動

### (2) 二枚貝モニタリング調査（南潟）

#### ● 調査方法

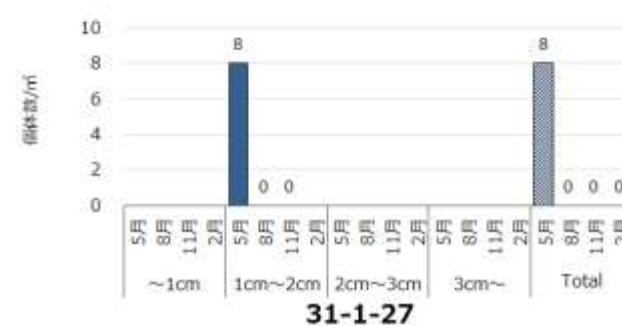
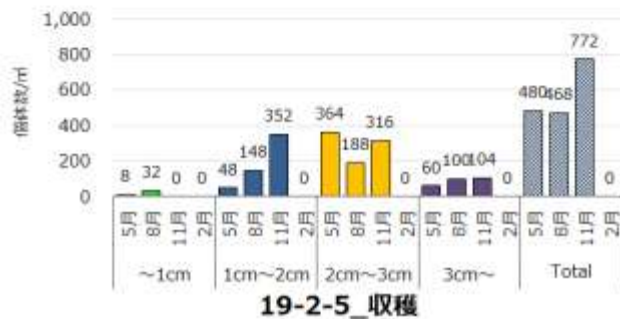
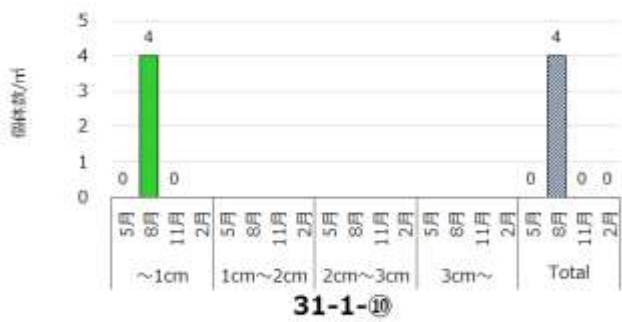
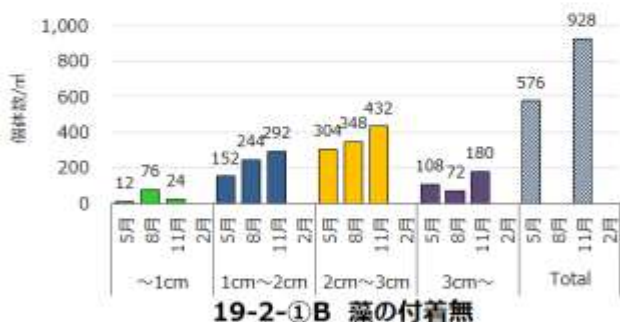
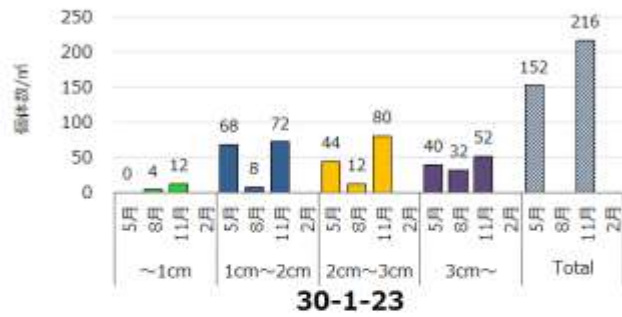
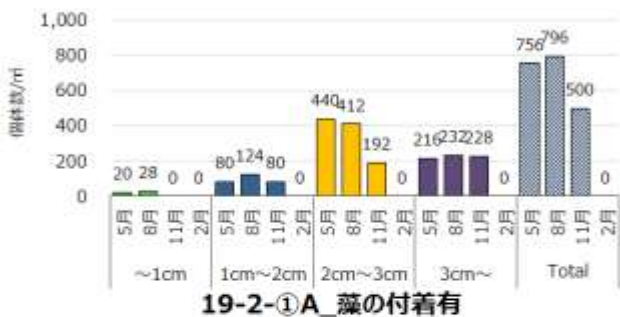
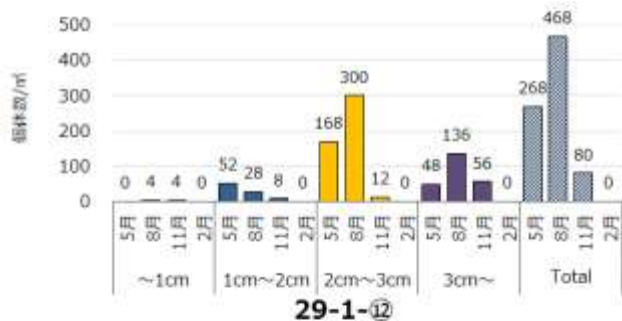
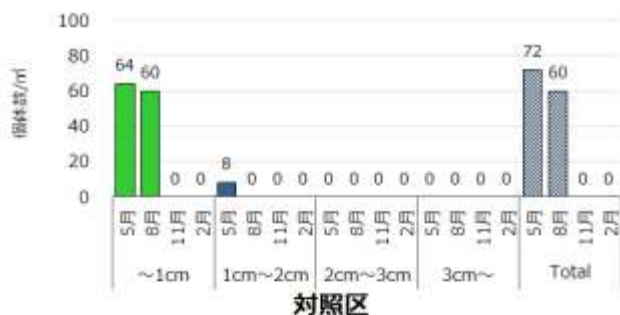
- ・ 四半期ごとに、50cm四方のコードラート(深さ25cmまで)、5mmメッシュのフルイを用い、底質中の二枚貝(アサリ、ニッコウガイ科、ソトオリガイ科、ホトトギスガイ)の個数を計測した。
- ・ アサリは殻長も計測した。殻長による年数の目安は、1cm未満：1年未満の着底稚貝、1cm以上2cm未満：1年未満の稚貝(15mm以上で産卵可能)、2cm以上3cm未満：1～2年目の成貝、3cm以上:2年以上の成貝(漁獲可能)。
- ・ 2018年度から、ふしの干潟ファンクラブ会員が協力。

#### ● モニタリング地点・時期等

NO.	地点名	開始年度	被覆網の目合	目的	調査時期				張り替え	収穫
					5月	8月	11月	2月		
1	対照区	2007	—	●被覆網の設置無し	○	○	○	○	—	—
2	19-2-① A (岸)	2007	9mm	●活動当初からの経年変化 ●藻の付着(無)の影響を比較(No. 3と) ●アサリ収穫(無)の影響を比較(No. 4と)	○	○	○	○	適宜	無
3	19-2-① B (沖)	2007	9mm	●藻の付着(有)の影響を比較(No. 2と)	○	○	○	○	無	無
4	19-2-⑤	2007	9mm	●アサリ収穫(有)の影響を比較(No. 2と)	○	○	○	○	適宜	有
5	29-1-⑩	2017	9mm	●設置から2年(漁獲可能か確認)	○	○	○	○	未定	未定
6	30-1-23	2018	9mm	●設置から1年(漁獲可能か確認)【鉄筋網】	○	○	○	○	未定	未定
7	31-1-⑩ 31-1-⑪	2019	9mm	●本年度に設置	○	○	○	○	未定	未定



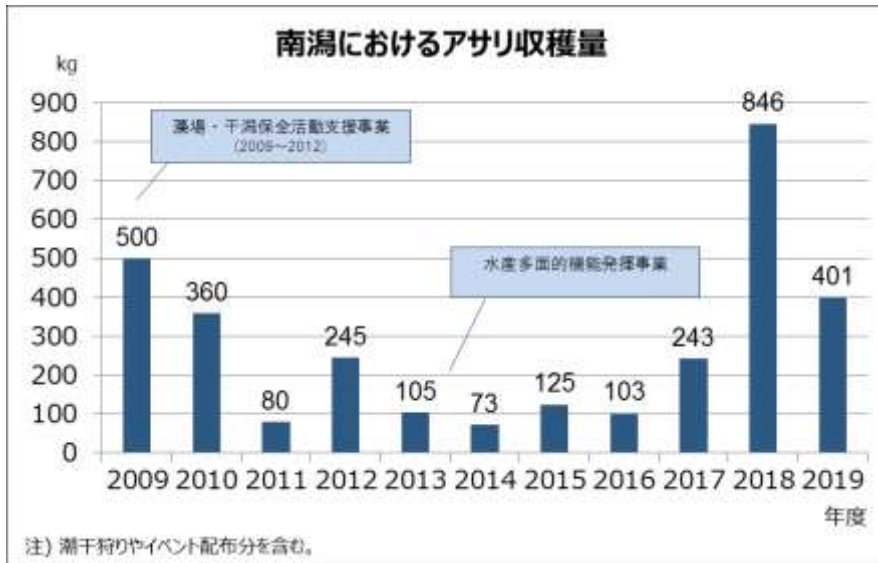
### ● アサリモニタリング結果



## 2 自然再生活動

### (3) アサリ収穫（南潟）

- ・アサリ収穫量は401kg。(2月時点の数量。ふるまい用や潮干狩りの収穫量を含む。)
- ・山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所が、4月～8月までの計8回で約153kgを漁獲し、道の駅等で、寄付付き商品として販売。



#### < 山口湾のアサリ採捕に係る規制措置 >

措置	根拠
・殻長2cm以下は採捕禁止(種苗としては可)	山口県漁業調整規則第37条
・11月～1月は採捕禁止	山口県漁協の資源管理措置(自主的)
・殻長3cm以下は採捕禁止 ・9月1日～11月30日の間は漁獲禁止	山口県瀬戸内海アサリ資源回復計画による漁獲努力量の削減措置(吉佐地区)

#### < 山口県のアサリ類漁獲量 >





## 3 環境学習

### 3.1 ぼくらふしの生きもの調査団！（住民協同型の干潟生物マップづくり事業）

#### (1) 開催概要

- ・開催日：2019年9月14日(土) 12:30～15:30 【大潮、最干15:00・潮位61cm】
- ・場所：幸崎公園、南潟
- ・主催：榎野川河口域・干潟自然再生協議会 環境学習WG
- ・目的：榎野川河口干潟における①干潟の生物図鑑、②生物の情報等を検索するアプリを作成するため、今年度は南潟の生物調査、アプリ開発に関する情報収集を実施。今回、住民参加型で生物調査を実施し、生物の種類・発見位置を記録する。また、あらかじめ生物毎に得点を設定し、ラリー形式で得点を競った。

#### (2) 参加者

- ・約68人（子ども28人、スタッフ含む）

#### (3) 実施内容

##### ① 生きもの調査

- ・各グループごとに、18種類の生きものシートにより探し、見つけたら記録シートに記入。
- ・GPS付きカメラで写真撮影（上、斜め右上、斜め左上）

##### ② 生きもの探しラリー

- ・3グループごと得点を競った。参加者にふしの干潟せんべいを配布。



#### (4) 取材

- ・朝日新聞から取材。

#### (5) その他

- ・参加者のGPS機能付きスマートフォンでも撮影したが、データの収集が困難。
- ・各カメラやスマートフォンのGPSデータの統一的な取り扱いが困難。

## 3 環境学習

### 3.4 二島小学校の環境学習

#### 3.4.1 講話

##### (1) 実施概要

- ・実施日：2019年7月10日(水) 9:00～10:00
- ・実施者：環境学習WG(事務局)

##### (2) 参加者

二島小学校の5年生11人、教員3人

##### (3) 実施内容

- ・榎野川河口干潟やカブトガニ等の干潟の生物について紹介。



#### 3.4.2 カブトガニ観察会（長浜）

##### (1) 実施概要

- ・実施日：2019年7月12日(金) 10:30～12:30
- ・実施者：山口カブトガニ研究懇話会、環境学習WG(事務局)

##### (2) 参加者

二島小学校の5年生11人、教員3人

##### (3) 実施内容

- ・総合学習として、カブトガニや卵塊を観察。

##### (4) 取材

宇部日報（7/13掲載）



#### 3.4.3 干潟の生き物観察会（長浜）

##### (1) 実施概要

- ・実施日：2019年10月25日(月) 10:30～12:30
- ・実施者：環境学習WG(水産大学校、事務局)

##### (2) 参加者

二島小学校の5年生11人、教員3人

##### (3) 実施内容

- ・干潟の生き物を探索し、観察した。

##### (4) 取材

山口ケーブルビジョン（10月～11月放送）





## 3 環境学習

### 3.5 カブトガニ観察会

#### 3.5.1 岩屋

##### (1) 開催概要

- ・開催日：2019年8月3日(土)
- ・主催者：山口カブトガニ研究懇話会

##### (2) 参加者

地域の団体

#### 3.5.2 長浜

##### (1) 開催概要

- ・開催日：2019年8月31日(日)12:30～14:45 ※ カブトガニ幼生生息調査と併せて開催
- ・主催：カブトガニWG
- ・協賛：あいおいニッセイ同和損害保険(株)山口支店  
(株)伊藤園山口支店（ご当地ペットボトルの無償提供、調査ボランティア）
- ・協力：あいおいニッセイ同和山口支店プロ会、(株)積水ハウス山口工場

##### (2) 参加者

49人(うち子ども25人)

##### (3) 取材

NHK（8/31放送）





## 4 学術研究・調査

## 4.3 カブトガニ幼生生息調査

## (1) 長浜・南潟における調査

## ① 調査概要

## ● 長浜の実施概要

- ・実施日：2019年8月31日(土) 12:00～16:00 【大潮、最干15:23、潮位14.1cm】
- ・主催：カブトガニWG
- ・協賛：あいおいニッセイ同和損害保険(株)山口支店  
(株)伊藤園山口支店（ご当地ペットボトルの無償提供、調査ボランティア）
- ・協力：あいおいニッセイ同和山口支店プロ会、(株)積水ハウス山口工場  
中村さん(調査終了後の参加者にかき氷の提供)
- ・参加者：60人(一般参加あり) ※カブトガニ観察会も併催

## ● 南潟の実施概要

- ・実施日：2019年9月2日(月) 14:30～17:00 【大潮、最干16:47・43.4cm】
- ・主催：カブトガニWG
- ・参加者：11人

## ● 調査方法

- ・設定した調査ライン上を1～3人で歩き、1ライン当たり2m幅で発見したカブトガニ幼生について、①個体数、②前体幅、③発見地点を記録(ベルトトランセクト法)。
- ・長浜では、16m間隔で20ライン(1,020m)の範囲を調査。南潟では、60m間隔で6ライン(1,000m)の範囲を調査。

→ 進入禁止場所



## 4 学術研究・調査

## ② 調査結果

## ● 発見個体数・推定個体密度

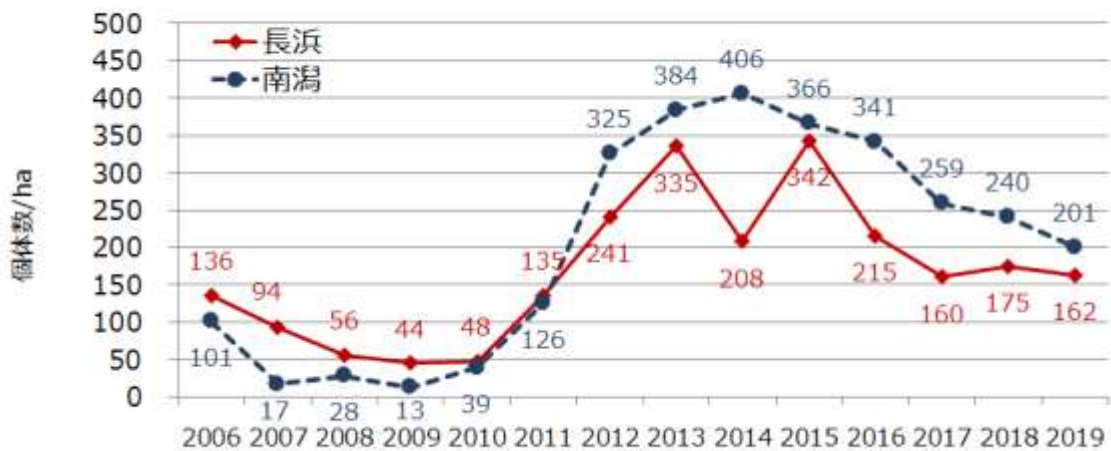
昨年度よりも若干減少。

長浜・南潟のカブトガニ調査結果 <発見個体数>



※南潟：2018年のみライン6（300m）を実施

長浜・南潟のカブトガニ調査結果 <推定個体密度>



※南潟：2018年のみライン6（300m）を実施

## 4 学術研究・調査

### 4.1 自然再生協議会全国会議

#### (1) 開催概要

- ・開催日：令和元年9月18日（水）～9月18日（木）
- ・場 所：榎野川河口域・干潟自然再生協議会事業実施場所
- ・主 催：環境省自然環境局自然環境計画課（運営：株式会社総合環境計画）
- ・協 力：榎野川河口域・干潟自然再生協議会（事務局：山口県自然保護課）
- ・視 察：①南潟（カブトガニワーキンググループ）  
②きらら浜自然観察公園（NPO法人野鳥やまぐち）
- ・目 的：自然再生に取り組む自然再生協議会が情報交換し、課題への対応策等の情報共有を図るとともに、自然再生に取り組んでいる地域の現地視察を行い、全国の自然再生事業の更なる推進を図る。

#### (2) 参加者

環境省、農林水産省、各自然再生協議会等75名、榎野川河口域・干潟自然再生協議会

#### (3) 実施内容

- ・開会、講演「榎野川河口域・干潟自然再生協議会の取組」
- ・視察 ①南潟（カブトガニ等の干潟生物の視察）  
②きらら浜自然観察公園（クロツラヘラサギ保全事業、野鳥観察）
- ・懇親会
- ・会議

#### (4) 取材

山口新聞（9/19掲載）、KRY（9/18KRYニュースライブ<sup>®</sup>放送）



<環境省自然環境計画課植田課長挨拶>

<浮田会長挨拶>

<専門家会議 鷲谷委員挨拶>



<講演>

<現地視察①原田GRの説明>

<現地視察①南潟での干潟生物の観察>



<現地視察②原田園長の説明>

<懇親会 徳重審議監挨拶>

<会議 グループワーク>



## 1 上流域における活動

### 1.2 環境学習・啓発活動

#### (1) 榎野川流域連携促進協議会・山口県・山口市の手づくり郷土賞（大賞部門）の受賞

平成17年度に榎野川の源流を守る会が、国土交通大臣表彰である手づくり郷土賞（地域活動部門）を受賞し、その後も活動が継続・発展していることから受賞。

##### ① 手づくり郷土賞受賞記念発表会～グランプリ2019～

- ・開催日：令和元年12月14日（土）12:30～16:10
- ・場 所：政策研究大学院大学1階想海樓ホール（東京都港区六本木7-22-1）
- ・主 催：手づくり郷土賞事務局（国土交通省総合政策局公共事業企画調整課）
- ・参加者：一般部門（20団体）及び大賞部門（4団体）の受賞団体 等
- ・内 容：受賞団体による活動プレゼンテーションによるグランプリ等の決定



##### ② 手づくり郷土賞（大賞部門）受賞記念植樹

- ・開催日：令和2年1月19日（日）8:30～9:00
- ・場 所：荒谷ダム 榎野川源流の碑設置場所（山口市宮野上）
- ・参加者：榎野川流域連携促進協議会、ボーイスカウト、山口県、山口市 国土交通省中国地方整備局山口河川国道事務所
- ・内 容：大内塗の原材料となるエゴノキを、源流の碑設置場所に植樹。
- ・取 材：宇部日報（1/20掲載）



##### ③ 手づくり郷土賞（大賞部門）認定証授与式及び現地視察

- ・開催日：令和2年1月31日（金）10:00～12:00
- ・場 所：①授与式 山口県庁環境生活部1号会議室（山口市滝町1番1号）  
②現地視察 四季の森（山口市仁保）
- ・主 催：国土交通省中国地方整備局
- ・出席者：榎野川流域連携促進協議会、山口県、山口市 選定委員（千葉大学大学院園芸学研究科 秋田准教授） 国土交通省中国地方整備局、山口河川国道事務所
- ・取 材：KRY山口放送(1/31放送)、山口新聞(2/1掲載)、中国新聞・毎日新聞(2/6掲載)

